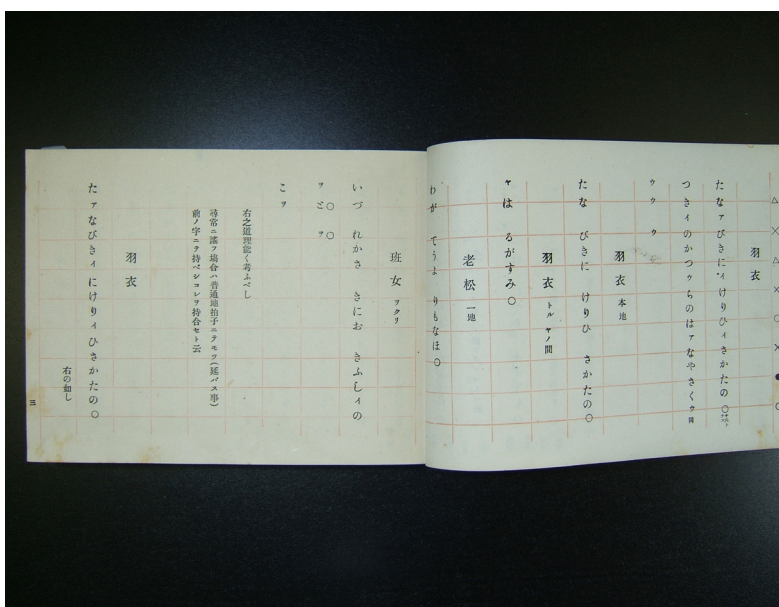
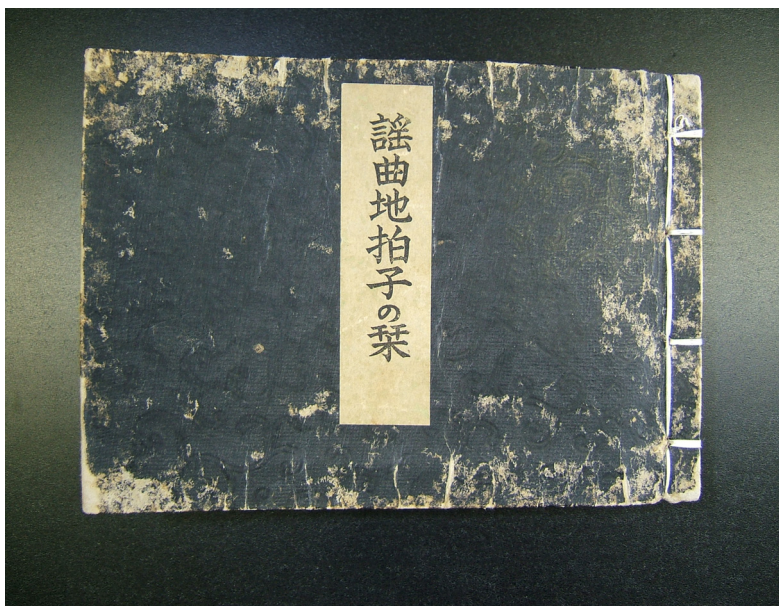


## 伏田清三郎 『謡曲地拍子の栞』

大正四年大西閑雪序があり、また、はしがきには「此書ハ常磐会の謡本によりて記したれば同本に依らずば齟齬する事あるべし」とあるように、京観世岩井派の流れをくむ謡の拍子当たりを示した書物である。全体は、近古式で示されている。冒頭の高砂については、拍子合のすべての部分を割り付けてあるが、続く他の曲については、当たりの難しい部分のみを記す。写真下に示すとおり、この時代には一般化しつつあった、赤線で八拍子を示すフォーマット（33頁参照）が利用されている。



標題 内題…

標題紙…

奥附…

その他…謡曲地拍子の栞(題簽)

著者 奥附…伏田清三郎

その他の場所…伏田清(はしがき)

出版 版次…第一版

出版地…大阪

出版社…大西鑑一郎

出版年…大正5(1916)

その他の場所…はしがき、序 大正4

(1915)

形態 冊数…一冊 頁数…一四二丁

寸法…13×19(cm)

状態 写本版本の別…版本 現物複写の別…現物

備考 大西閑雪序。